

- 視覚に障がいのある方や高齢者など小さい文字が読みにくい方、外国人など日本語表記による情報が理解しにくい方は、生命を守るために必要な情報の取得が困難な状態にある。

ハザードマップで
周辺地域の災害リスク
が把握できない



最寄りの避難場所がどこにあって
どこを歩いていくとよいのか
が分からない

視覚障がい者や外国人等への災害情報提供体制の整備

- 視覚障がい者や高齢者、外国人などが、ハザードマップの内容を理解できるよう、地図面の情報を音声で提供する音声コード読み上げアプリを導入する。

【主な機能】

- ・ 現在地と周辺の災害リスクや避難場所の情報提供
- ・ 最寄りの避難場所の案内、平時の避難経路の確認
- ・ 警報、注意報などの気象情報や避難情報の提供
- ・ 地図及び音声読み上げの多言語化に対応

(英語、中国語(簡体、繁体)、韓国語、ベトナム語、ネパール語)

(県内全域で利用可能)

※利用者は、無償のアプリをダウンロードすることで利用可能
(県が事業者と利用契約して必要経費を負担)



県を挙げた特殊詐欺被害防止対策について

資料 4 - 2
令和 8 年 5 月 15 日
防災くらし安心部
警察本部

●県内の特殊詐欺被害の現状

		令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年 *	令和 8 年 3 月末*
特殊詐欺	認知件数 (件)	21	47	89	165	175	46
	被害額 (万円)	7,189	11,504	50,983	85,912	108,643	29,038

※令和 5 年以降の数値は、SNS 型投資・ロマンス詐欺を含む。

*の各数値は暫定値

・令和 6 年から SNS 型投資・ロマンス詐欺の統計を開始（前年との対比のため令和 5 年の数値も把握）

・令和 8 年から SNS 型投資・ロマンス詐欺は特殊詐欺の一手口に位置付けられている。

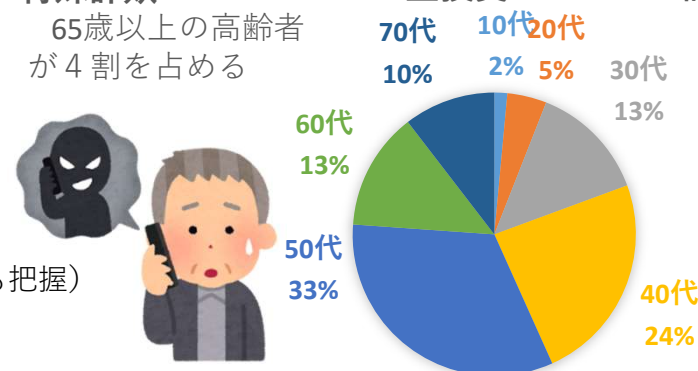
※令和 8 年 3 月末の被害額は、前年同期比で 1 億 7,752 万円増加

令和 7 年の被害総額は、初の 10 億円超

特殊詐欺

65 歳以上の高齢者が 4 割を占める

SNS 型投資・ロマンス詐欺



特殊詐欺等被害防止のための緊急連絡会議

■県、市町村、県警察が情報共有ネットワークを構築

県警察から提供された注意喚起情報をタイムリーに市町村と共有し、市町村から地域住民に対して注意喚起情報を配信（計 12 回）⇒令和 8 年度も継続

山形県特殊詐欺被害撲滅推進協議会（仮称）

■県、市町村、警察、金融機関、企業、各種団体など幅広い関係機関が参画する組織を新たに立ち上げ

⇒関係機関が一丸となって啓発活動を行うなど、特殊詐欺被害防止に向け、県民運動を強力に展開

令和 7 年度

令和 8 年度